



黒髪山大蛇退治伝説

昔、肥前国有田郷の白川の池に大蛇が住み、ふもとの人達を脅かし田畑を荒らして暴れていた。里人達の訴えで領主後藤高宗(たかむね)は退治にでかけたが、大蛇は現れなかった。

そのころ近くに来ていた鎮西八郎為朝(ちんぜいはちろうためとも)が、朝廷の命で大蛇退治に加わるようになった。女性をいけにえにして差し出すことになったが、万寿(まんじゅ)姫という娘が申し出たので、領主高宗は御家再興を約束した。

白川の池のほとりに万寿姫が美しく着飾って座ると、まもなく水面に大波が立ち大蛇が現れた。姫に襲いかかる大蛇に為朝が八人張りの強弓から放った大鎗矢(かぶらや)が右目を射抜き、高宗が三人張りの弓で放った矢が眉間を貫いた。

大蛇は、軍勢に追われてのたうちまわりながら西有田町の竜門の岩屋に向かって必死になって逃げたが、力つきて竜門峡の谷底へと落ちていった。そこに丁度通りかかった行慈坊(ぎょうじぼう)という盲僧が異様な気配を感じ、短刀で大蛇にとどめを刺した。その後、万寿姫の願いどおり家は再興され、姫は良縁を得たと言われる。

この伝説には、盲僧と蛇との古い信仰的な関係も秘められているようです。黒髪山頂には大蛇が七まき半も巻き付いたと言われる天童岩がそびえ立ち、黒髪山周辺に残る地名などから大蛇退治の様子が伺えます。

大蛇が棲家としていたという竜門の岩屋(洞窟)、陣幕を張って矢を放ったという幕ノ頭山、大蛇に当たった矢が跳ね返って刺さったという矢杖(西有田町)、酒樽を持ち寄って祝杯をあげた大樽、中樽、小樽(有田町)、大蛇がいなくなって住みやすくなって住吉村(山内町)、大蛇の鱗が重くて馬が悲鳴を上げた駒鳴峠(伊万里市)など。

黒髪山登山口の案内より